

【別紙】令和4年度 幼稚園自己評価重点目標シート (川口市立舟戸幼稚園)

(A4判横)

幼稚園教育目標	あかるく なかよく たくましく
目指す幼稚園像	選ばれる魅力ある幼稚園

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

※幼稚園関係者評価実施日とは、幼稚園関係者評価委員会を開催し、幼稚園自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	
幼稚園関係者 (教職員を除く)	5名
事務局 (教職員)	2名

領域	幼稚園自己評価			年度評価 (令和5年2月1日 現在)		
	年度目標			重点目標の達成状況	達成度	
	現状と課題	重点目標	具体的方策			
組織運営	目指す幼稚園像の実現に向けて、意欲的に課題解決を行う組織をつくり、PDCAサイクルを進めて、運営の工夫・改善を図る必要がある。	○目指す幼稚園像及び幼児像の共有化 □PDCAサイクルの推進	○週報 (含む園長だより) を通して経営方針を浸透させ、朝集、職員会議等で確認し、共通行動を徹底する。 ○週日案を通して幼児の実態や課題を的確に把握し、個に応じた丁寧な保育を行う。 □短期・中期・長期の達成状況の見える化を行い、運営の工夫・改善を図る。	○週報 (含む園長だより) を通して見通しを持たせ、共通行動の徹底を図った。 ○日々、週日案に個々の幼児の実態や課題を記録し、個に応じた丁寧な保育を行うことができた。 □指導計画の反省を運営の工夫・改善に生かした。さらに見える化を図っていく必要がある。	A	・PDCAサイクルを進めて課題を明確にし、さらなる運営方法の工夫・改善を進めていきたい。 B ・見える化を図るために、達成状況の数値化を工夫することが課題である。
教育課程	幼稚園教育要領の趣旨を生かしながら、本園の実態に合った魅力ある教育課程を編成し、カリキュラムマネジメントの観点から実施・評価し、改善していく必要がある。	○舟戸学園の連携教育と豊かな自然環境の特色を生かす保育の推進 □小学校との連携による幼小の滑らかな接続	○舟戸学園としての幼小中の様々な交流活動を通して、人と関わる力を育成する。 ○様々な自然体験活動を計画的に行う。 □小学校と連携したスタートカリキュラムを活用する。 □幼小の教員が互いに学び合う機会を増やす。	○舟戸学園としての連携教育では、新しい形での交流活動を実践することができた。 ○自然体験活動を計画的に進めることができた。 □舟戸小と共同して、アプローチカリキュラムとスタートカリキュラムを作成し、幼小の滑らかな接続を図っている。	B	・舟戸学園として、幼小中の交流とともに、今後教育課程にまで踏み込んだ取組に発展させていきたい。 B ・幼小中の教員が互いに授業や保育活動を見合う時間を確保し、学び合う機会を増やしていく。
開かれた学校づくり	舟戸学園の連携教育の素晴らしさや保育の質の高さを具体的に発信するとともに、保護者・地域の声を収集して園経営に生かしていく必要がある。	○幼稚園の保育内容と幼児の姿の積極的な発信 □保護者・地域等からの情報の収集による連携の強化	○園だよりやHP (ブログ) 等で、保護者、地域等に積極的に発信する。 □保護者、学校評議員、町会長、民生委員・児童委員等から広く意見を収集する。 □保育参観、保育参加、保護者会、教育相談、個人面談等で、常に「幼児期の終わりまでに育ってほしい」を意識付けた。	○園だよりやHP (毎日のブログ) で、保育活動を保護者、市内に積極的に発信した。 □保育参観、保護者会、教育相談、個人面談等で、常に「幼児期の終わりまでに育ってほしい」を意識付けた。	A	・舟戸学園の連携教育の素晴らしさや荒川の自然を生かした心豊かな教育のよさを、さらに広くアピールしていく。 ・HPで保育のよさを具体的に発信するとともに、保護者・地域の声を収集して保育に生かしていく。
教職員の資質向上	価値観の多様化、外国籍や発達に課題がある幼児が増えている現状を踏まえ、特別支援教育についても研修を深めていく必要がある。	○研修の充実による指導力の向上 □市立幼稚園教育研究協議会の研究の充実	○一人一人の課題を明確にした声かけを通して、研修への参加意欲を高める。 ○園内研修や連携教育、特別支援教育の研修を通して、実践的な指導力を向上させる □市立幼稚園2園の実践事例研究を通して学び合い、保育の質を向上させる。	○園内研修では、様々な事例研究や外部講師の講演を通して学び合い、幼児理解を深めるとともに、指導力の向上を図ることができた。 □市立幼稚園教育研究協議会で、2園が実践事例研究等を通して学び合いを推進し、指導力の向上を図ることができた。	A	・外部機関と連携し、様々な機会を捉えて、さらに研修を充実させていく。 A ・発達に課題がある幼児が増えている現状を踏まえ、特別支援教育の研修を進めていく。
施設・設備等の管理	施設・設備の事故ゼロを継続するために、さらに安全教育を進めて、教職員と幼児の危機管理意識の高揚を図る必要がある。	○安全管理の徹底 □教職員と幼児の危機管理意識の高揚	○日常の安全点検、毎月の定期点検、各行事の事前点検を徹底に行い、危険箇所を早期発見と修繕を迅速に行う。 □様々な想定による避難訓練を繰り返し実施する。 □様々な事故の事例やヒヤリハット体験を共有し、安全への意識を高める。	○日常の安全点検や毎月の定期点検、各行事の事前点検を徹底したことにより、事故ゼロを達成することができた。 □様々な事態を想定した避難訓練を毎月行なった。教職員事故防止研修では、具体的な事例で当事者意識を持たせ、事故ゼロを実現することができた。	A	・施設・設備の安全点検の方法を工夫し、さらに教職員の危機管理意識の高揚を図る。 A ・日々の訓練の中で、幼児の安全に対する意識を高めて、命を守る方法をしっかりと身に付けさせる。

幼稚園関係者評価	
※実施日	令和5年2月8日
幼稚園関係者からの意見・要望・評価等	<p>・自由保育が素晴らしい。活動の様子をHPやポスター等で、保護者や市内全般に積極的に広報活動してほしい。(子育てサポートセンターや公民館、地域の集り等)</p> <p>・園庭が広く、自然環境の素晴らしさや大きな特色である。園内でサヤエンドウやいもほり等の栽培体験ができることがとてもよい。 ・虫捕りやメダカの観察、ヤゴからトンボへの成長過程等を実際に見ること等、幼児期の体験が大人になっても生活に生きる。さらに自然体験活動を推進してほしい。</p> <p>・幼稚園の生活がよくわかる。今後もHP (ブログ) やポスター等で、保護者、地域等に積極的に発信してほしい。 ・外国人の保護者への対応として、保護者配布文をわかりやすくしてほしい。 ・今後も保護者、学校評議員、地域などから広く意見を収集する。</p> <p>・運動会は全体できて、盛り上がりがあった。子供と保護者が一緒にやっていたところがとてもよかった。 ・運動会では年長児の係活動もあり、ねらいの達成に配慮されている。 ・年長、年中、年少の交流があり、上の子を見てかっこいいと思ったり、下の子に教えてあげたりするところがよい。 ・当日だけではなく、導入の活動があって、終わった後も活動が広がっている。先生が丁寧に説明されているからだと思う。 ・サツマイモを植えるところから、お世話をし、収穫まで体験できる。数を数えたり、手洗いなどまで細かい配慮をしている。 ・劇遊びでは、子供たちが自主的に動いていて、先生との信頼関係が図られていた。</p> <p>・最近、園児の事故が報道されている。園内や遠足などの園外活動等の事故に気をつけてほしい。 ・自転車のヘルメット着用等、安全に十分気をつけて登降園してほしい。</p>